

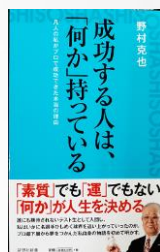
## まつすぐに草立ち上がる穀雨かな 岬 雪夫

4月19日は二十四節気の一つ「穀雨」でした。たくさんの穀物を潤す春の雨が降る頃とされています。この季節に降る雨は、農作物だけではなく草花にとっても、その成長を助ける恵みの雨です。稲の種籾や水辺の葦が芽吹き始め、色とりどりの花々が咲き始めるのもこの季節です。

教員の仕事も農作物や草花を育てることに似ているかもしれません。私たちの仕事は、授業や部活動など様々な教育活動を通じて、生徒の心に種をまき、それを育て、実らせる営みに他ならないと思うからです。生徒諸君が天に向かってまつすぐに立ち上がる草のように、力強く成長してくれることを切に願っています。



## おすすめ書籍



野村克也著『成功する人は「何か」持っている』（詩想社新書920円）

先日亡くなった元プロ野球選手・監督の「ノムさん」こと野村克也氏が、テスト生から這い上がり、一流選手に上り詰め、また、名監督と呼ばれるまでの物語です。

随所に人生を成功へ導くヒントがちりばめられています。自分の将来に思い悩んでいる人、夢は持っているのにどのように行動したらよいか分からない人、必読の本です。幼少期の野村少年の姿や母親との絆には涙を禁じ得ませんでした。珠玉の一冊です。

## 令和二年度入学式が行われました

4月8日、令和二年度入学式が行われました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、保護者の皆様には出席をご遠慮いただき、新入生と教職員で挙行了しました。来賓はPTA会長、副会長、若駒会長のお三方に絞らせていただきました。規模を縮小し、時間を短縮するなど、例年とは異なる入学式となりましたが、精一杯、新入生の門出を祝福しました。

今年度の入学生は普通科114名、理数科37名、合計151名となります。担任による氏名点呼では、ほとんどの生徒がしっかりと返事をしており、私から入学許可をいたしました。

式辞では、本校の歴史と校訓について簡単に触れたあと、学校生活で大切にしたいことを以下のとおり三つ伝えました。

- ①明確な目標を持ち、確かな学力を身につけることに全力で取り組むこと
- ②他人への思いやりや優しさを持つこと
- ③互いに高め合う集団を目指すこと

## 対面式が行われました

4月9日、対面式が行われました。例年なら2・3年生による伝統の校歌披露がありますが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2・3年生は入れずに、1生徒と生徒会役員のみで行われました。生徒会長の中塚涼太君から歓迎の挨拶があり、学業や部活動に積極的に取り組み、悔いの残らない三年間を過ごしてほしいと激励の言葉がありました。続いて、スライドを使用して、若駒強歩大会、球技大会、校内文化祭、馬陵祭、体育祭等の学校行事の魅力を紹介しました。最後に1学年を代表し水戸暖乃さんが御礼の言葉を述べ、式は終了しました。

## ～校訓「至誠」の具現化を～

また、本校は学力向上と進路実現、豊かな人間性の伸張を可能に環境が整っていますが、それを可能にするのは、生徒諸君の主体的・積極的な取り組みにかかっていることも話しました。その際、大切なことは、誠実に全力をあげて事に取り組む姿勢であり、新入生諸君には、高校生活の様々な場面で一生懸命取り組むようお願いしました。

古代中国の儒学者孟子の言葉に、「至誠天に通ず」があります。まさに本校の校訓そのものであり、様々な教育活動の中で生徒一人一人が「至誠」を具現化すれば、必ずや生徒諸君の成長につながるものと信じています。

このたび保護者の皆様には、やむなく出席見合わせにご協力いただき誠にありがとうございました。申すまでもなく、教育は学校だけで出来るものではなく、保護者の皆様のご協力、学校と家庭の連携が不可欠です。私たち教職員は、本校の使命に鑑み、お子様が立派に成長するよう指導してまいりますので、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 部活動紹介が行われました

4月10日、部活動紹介が行われました。対面式同様、新型コロナウイルス対策として、体育館の換気に配慮し、参加する部員を各部2名までに制限して時間短縮を図り実施されました。生徒会役員の進行のもと、各部代表が紹介用パンフレットを用い、活動内容や魅力を説明しました。1年生はパンフレットを見ながら、各部の紹介を真剣に聞いていました。私からは、本校は文武両道を目指し、学業だけではなく、部活動にも打ち込んでほしいこと、仲間と汗を流し、苦勞を共にし、目標に向かって取り組むことは、必ず生徒諸君の成長につながることを伝えました。



## 新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休業

4月16日に政府から「緊急事態宣言」の対象地域を全国に拡大する方針が発表されました。これを受けて、県知事から県教委に一斉臨時休業を行うよう要請があり、県立高校は4月21日から5月6日まで臨時休業することになりました。現在、本県においても新型コロナウイルスの陽性患者が連日確認されたおり、感染拡大を抑える上で、非常に重大な局面に入っています。新年度が始まったばかりで臨時休業になったことは残念ではありますが、今、教育現場に求められていることは、生徒の安全と生命を守ることです。この困難な状況がいち早く終息することを願うばかりです。20日には私から生徒諸君に向けて放送で臨時休業中の過ごし方について話をしました。人間は困難な時にその人の真価が問われます。新型コロナウイルス感染拡大

大という未曾有の事態に遭遇し、思い通りにならないことばかりですが、それをコロナのせいにしては得るものはありません。困難の中であって、やるべきこと、できることにしっかり取り組み、自分をマネジメントする力、忍耐力、粘り強さを身につけて欲しいと思います。相馬高校生なら自分の気持ちや行動を上手くコントロールし、臨時休業中でも成長することができると思っています。くれぐれも健康に留意し、元気な生徒諸君と一日でも早く会えることを願っています。

コロナ禍に 立ち向かいたる 春の駒

### 朝の登校指導

4月13日から17日までの5日間、朝の登校指導が行われました。生徒が登校する時間帯、正門と裏門に当番の先生方が立ち、挨拶、服装、自転車乗車マナー等を指導しました。私も一日だけ指導に加わりましたが、生徒の明るい挨拶に清々しい気持ちになりました。しっかりとした挨拶と端正な服装は高校生活の基本であり、社会人になっても求められる常識です。特に挨拶は相手に好印象を与え、会話のきっかけとなり、コミュニケーションを円滑にし、良好な人間関係を構築するために不可欠です。生徒諸君には日常生活のあらゆる場面において、挨拶を心がけて欲しいと思います。



### 苦渋の決断～若駒強歩大会延期～

4月22日に予定されていた伝統の若駒強歩大会が延期となりました。新型コロナウイルス感染拡大防止のためです。臨時休業が発表される前から、生徒の安全を第一に考えた苦渋の決断でした。今回のウイルスは昨年12月に中国武漢で感染者が確認されてから、瞬く間に世界中に広がりました。ウイルスの感染力の強さと感染するスピードの早さに驚くばかりです。

今年の強歩大会は、塩手山コースが今年の台風で被害に遭ったため、松川浦コースで実施する予定でした。新型コロナウイルスの状況をみながら、終息後、秋口を目途に実施したいと考えています。一日も早い終息を期待するとともに、生徒たちが強歩大会で思う存分健脚を競うことができるよう心から祈っています。



## 同窓生列伝⑫折笠晴秀（1885-1965）続編 ～関東大震災での被災を乗り越えて～

大正10年3月、折笠は阿久津病院を辞し、麴町区有楽町二丁目四番地に泌尿器科皮膚科病院を開業しました。その動静は相馬郷友会が発行する「相馬郷」第9号の郷友動静欄で紹介されており、折笠は開業医としての一步を踏み始めました。しかし、それも東の間、大正12年9月1日11時58分、マグニチュード7.9の巨大地震が関東地方を襲いました。いわゆる関東大震災です。地震は東京、神奈川など関東一円に甚大な被害をもたらしましたが、京浜地区に在住する相馬出身者も被災を余儀なくされました。大正13年5月発行の「相馬郷」第12号には、旧藩主の相馬家が罹災した旧相馬藩出身者とその家族を収容し、「炊き出しその他出来得る限り救護を施し止宿せしめ」、その数は約80名にのぼったことを伝えています。また、罹災した旧藩士には、相馬家から救済金が贈与されました。東京日日新聞、報知新聞には下記のとおり公告が掲げられました。

今回の震災に原因し住宅の焼失又は倒壊せられ急迫を告げらるる旧相馬藩出身の罹災諸君は遠慮なく至急当

家へ申出られたし  
豊多摩郡落合村下落合三一〇番地 相馬子爵家

なお、同誌には旧相馬藩出身の罹災者の氏名が掲載されており、その数は次のとおりです。東京の全焼73名、横浜の全焼40名、倒壊12名、焼死者4名、圧死者2名。東京の全焼の欄には「折笠晴秀」の名前も確認できます。また、会員の移動先の住所も掲載されており、折笠は東京本郷区曙町13の3号に転居しました。関東大震災は、京浜地区在住の

旧相馬藩出身者に大きな被害をもたらしましたが、そこから見えてくるものは、藩主と藩士の強い結びつき、相互扶助の意識の高さでした。

大正14年、折笠は大森町木原山1518に移転し、「相馬郷」第15号に家族の消息と心境を次のように載せています。

- 一、医者
- 二、妻及び四人の子供変る変る病気になるには弱り候
- 三、早く景気が直つて欲しいものです

震災後、折笠は東京日比谷に病院を再建したようで、大正15年8月発行の「相馬郷」第16号には次のような挨拶文が掲載されました。

新緑の候益々御清栄奉慶賀候陳者小生儀従来毎日不在勝にて万事不行届且つ折角御紹介を辱ふし候方々に対し兎角御無礼のみ致し居候段深く御詫申上候今回左の通り時間を改め専心診察に努力可仕候に就ては何卒不相変御愛顧に預り度偏に奉希候先は御左右御伺ひ旁々御挨拶申上度如此御座候 敬具

大正十五年

自午前八時 午後二時迄

東京日比谷折笠医院

開業医として独立した折笠は、関東大震災という未曾有の危機を乗り越え、医師としてのキャリアを積み重ねていくこととなります。